

対談
書店フリペにおける「猫」の役割などについて。

ねこ村 (TSUTAYA 寝屋川駅前店)
でんすけのかいぬし (セントポールプラザ書籍店)

●プロフィール

ねこ村さん・・・TSUTAYA 寝屋川駅前店（大阪府寝屋川市）に勤務。文庫紹介のフリーペーパー「ぶんこでいす」を毎月1回発行。「A4判の用紙、裏表両面に、新刊情報、というか、本への愛が、隅から隅まで、一分の隙もなくあふれんばかりに、というかあふれ気味にぎっしり。絵・文とも、描き込みぶりとかけられた熱量がすごくて、毎号、ひと通り目を通し終わるころにはすっかり圧倒されている。店内の棚にスペースを設け、フリペで紹介した本を並べるなど、売り場との連動も忘れない。現在流通している新刊書店フリペのうち、筆者が知るものの中では、もっとも「熱い」1枚。」（洋泉社発行『本屋へ行こう！』内特集「書店員がつくるフリーペーパーがおもしろい！」から、ライター・編集者の空犬太郎氏の紹介記事から引用）

でんすけのかいぬしさん・・・セントポールプラザ書籍店（東京都）に勤務。猫の「でんすけ」氏をメインキャラクターとしたフリーペーパー、「本屋でんすけにやわら版」を毎月1回発行。「素人の余技とは思えない書き文字やイラストの腕を、フリペにふるう美術系書店員（造語）は書店界に少なくないが、

でんすけ氏もその一人。イラストや描き文字のクオリティと、切り取ればそのままPOPに使えるバランス感覚抜群のデザインのフリペは、一度目にしたら忘れられない。読み上げるとわかる語呂のいいタイトルも秀逸だ。でんすけ氏に、あちこちの版元から、販促物用イラストの声がかかっているのも当然と思える。フリペ界に現れた新星。」（前出同誌・空犬太郎氏紹介記事から引用）

大盛堂・山本（以下Y）まずお二人がフリペを作成することになったきっかけを教えてください。以前ねこ村さんには当フリペにご登場頂いて色々お聞きしたので、まずはでんすけのかいぬしさんの方を重点的に（笑）でんすけのかいぬし（以下D）私の店は“大学売店”なので、本来“買わざるを得ない本を買いに行く”店なんですね、だからいくら一般書店で売れているからと言って、そういう本を置いても売れなかつたから、ですかね。“普段、本を読まない人に、いかに宣伝するか”コレを第一に考えて今イラスト多め、というカタチになりました。

Y ちなみに売場だとどんなジャンルの本が売れてますか？

D もう、本当に法律の本とかですね。あとは資格、検定、語学、就活本。私も担当は資格検定就活関係です。

Y 学生さんに本、特に小説を読んでもらうためにという理由で？

D いや、“特に小説を読んで欲しくて”というより、まず“そこにそういう本が置いてあるの！気付いて欲しい…！”という気持ちの方が近いかな。ねこ村（以下N）文庫とか、でんすけさんが色々とやる前はどうだったの？

D 文庫はそれなりに売れてました。ただね、決まった著者の本ばかりで、極端な話、それしか売れなかつたんです。

Y 特定の著者の方に偏りがちだったと。

D ウチの店は小さくて棚に面陳出来る余裕がないので、入れ替えてもそんなに変わつてるように見えないので（笑）いいんですけど、やっぱり名前が爆発的に売れてなくても面白い作家ってたくさんいるじゃないですか、だから視野を広げてほしいなって。おかげさまで今は万遍なく売れるようになりました。

Y では、ねこ村さんの作成のきっかけは？

N いくつかあります。まずはペーパーを作りたいと以前から考えていたこと。売り場や棚作りのことで考えていたことがあったこと。ペーパーはある人に背中を押されて、具体的に「作ろう！」と決めました。

D 憧れてた、というのは何かそういうペーパーがあったんですか？

N そうです。紀伊國屋書店本町店（大阪市）で配布されていた「文芸と文庫通信」。あのハイクオリティ。熱。もう配布されませんが、今は個人で「青衣茗荷の文芸通信」というペーパーを作っておられます。ご本人が辞めてからもバックナンバーとして配布されていて、私はそれを見て、ときめきました。「ぶんこでいす」を作るまでは1年ほどあきます。

Y けっこう、あきましたね。

N きちんと作ろうと思ったきっかけはお店のヘビーユーザーを作りたいと思っていたこと。単純に文庫を売りたかった、お店を盛り上げたかった

こと。本屋は楽しいところで、本は面白い！と思ってほしかったことからですね。

D 私は都内で毎年開催される出版社の商談会に行って、思ったより私の店をサポートしてくれている出版社が多かったことに気づいて2週間後くらいには作っちゃってたな（笑）

Y ちなみにねこ村さんが、作成するのに1年ほどあいた理由というのは？

N “すてき！本屋さんって自由だなあ。色々とチャレンジしてみるのも面白いかもしれない。”と思ってから、1年間は普通に働いてました。勝手にそんなことはいけない、というまだまだウブな時代です。（笑）

Y 慎重だったと？

N よく言えば慎重。ですかね。具体的に自分で作るイメージが無かつただけとも、言います。（笑）…ただ勝手に作ったりはしてませんよ！

Y （笑）では次にいきましょう。お二人がフリペ作成にあたって気を付けていることはなんでしょう？特に二人ともイラストの面白さを周囲の方からよく言われると思うのですが。

N 私は比較的、くだけた感じで、「ねこ村さん」を本屋にいる友達だと思って欲しいというイメージでキャラクターを作りました。正確には最初の号には存在しません。最初は試験的なものだったのでオモテ面だけのペーパーでイラストはふんだんに描いていましたが、猫キャラはいませんでした。2号目からキャラが、3号目に名前が決定したんですが、本屋にいる友達の「ねこ村さん」が“めっちゃおもろいから読んでみて！”と言って

るようなイメージです。なので文章は会話の延長のようなライトなものを目指しています。

D 私のは線に沿って切ればPOPになる仕様なので、イラストはパッと目に入つて来るようなものを、文章はその本がいくら面白くても自分の感情を出さないようにしています。面白いかどうかの評価はお客様にお任せ！です。

N 私と真逆だ！

Y ですね（笑）

N あとそうそう、自宅や通勤通学の電車内で読むPOP、もテーマです。店にご来店されない方は当然私の作ったPOPは見て頂けないので、フリペでPOPを読んで、来店のきっかけに、はたまた「本を選ぶわくわく感」も味わつて欲しいと思っています。

D ねこ村さんえらいな、私、にやわら版作るまでPOP作ったこと無かつた。

Y ちなみに作成する上で、例えばこの箇所はイラストを見てほしいとか、文章に注目して、とか、そういう意図などはありますか？

N 本が注目されたら、という気持ちなのでイラスト・文章は付け合わせという意識かもしれません。本がありきのペーパーなのでエッセイとは違うので、その意味で、イラストメインでもなければ書評でもない、純粋に本の紹介のフリーペーパーです。

D 一応POPにした時に目を引く様に描いてはありますが、特にどこに注

目してほしいとかは無いかなあ。

N 無いのか！（笑）

D 私は名前も店名も出してなかったので、どこの誰が作ってるってのをわからなかつたワケだし（笑）

N 確かに、謎ペーパー。

Y 謎が謎を呼んでる気が（笑）あとフリペと売場との連動ですがお二人はどうですか？商品や売場からヒントを得てフリペに活かすことはあるのかなど。

N どちらもありますね。売り場や商品からフリペ。というのが私の基本かもしれません。売れてるもの、新刊、話題作を避けてるわけではありませんが、自分の店、本がありきのペーパーですから。自店の在庫ありきと言ふ意味で在庫確保第一。

D ウチは毎回、にやわら版を切つて作ったPOPを使って小さなコーナーをつくっています。売り場でも決して華やかではありませんが、ボロボロと売れているのでちゃんと見てくれる人はいるようです。あとは空き時間（授業中はお客様も少ない）にカウンターでにやわら版を描いているとお客様から声をかけてくださいます。“うわー！本当に全部手描きなんですねー！毎回楽しみにしています！”って。お客様のそういう声が一番嬉しいです。

Y それは作者冥利に尽きますね。

D あと売場や自分の持つていくつかの本でこんな特集組めそうだなっ

て閃いたら残りのフリペに載せられそうな本を本屋サンに探しに行きます。毎回そんな感じ。

N へえー！

D 図書館にも行くこともありますね。やっぱり触らないとね、書けないかな、文も絵も。

Y ちなみに他店さんのフリペや売場から刺激を受けたりアイディアを貰うことはありますか？

N やはり商品からのアイディアは貰います。思いついたことはどこでもメモ（そしてメモを紛失する…）！売場は、どうでしょうか。同じようなラインナップの売場から何かアイディアをもらうことは少ない気もします。楽しい売場や工夫してある売場だとコミック売場も実用も新書売場もどこもかしこも見て刺激は受けますね。

D 私はフリペ用の本を探しに行く時しか本屋に行かないでわからないですね。あと他店さんのフリペに関しては、今回「ぶんこでいす」と「大盛堂書店2F通信」の以前組まれていたお互いの特集【註1】読んで、“どうしよう…私と真逆だ…”と思ってました（笑）

N 私は気づいてたよ。フリペ作ってる人も色々だなあ、と思ってたから安心するんだ。（笑）

（次号に続く）

【註1】昨年9月、10月に発行した両フリーペーパーのフリペ特集。「ぶんこでいす」はねこ村さんと山本の対談、「大盛堂書店2F通信」は「ぶんこでいす」アンケート特集。空犬太郎さん、小説家の彩瀬まるさん、村山早紀さん方々にお答え頂いた。

大盛堂書店
2F通信
Vol.1.52

今号では、フリペ対談をご用意しました。「ぶんこでいす」のまり猫さん、「本屋でんすけにやわら版」のでんすけのかいぬしさんが登場。ご一読を。（山本）

東京都 渋谷区宇田川町22-1

TEL: 03-5784-8900

WEBサイト「ねぶなび.com」さんでも見るこじかでこます！

猿 のでどころ

第29回 景文館書店・荻野

こんにちは。

どんな本にでも使って、ウソではない帯のことばを考えました。

「今年いちばん泣ける本！最後のページの角で目を突いてみよ！」
「予想できない驚愕のラストシーン！（編集部もまだ読んでいません！）」

どっちを使おうかな？

さて11月、街にワムのラストクリスマスが流れはじめる季節ですね。厳密には企業によって「クリスマスっぽさを出すのは何日から！」と決めているはずですが、コンビニとか、ほんとにあちこちで聞く印象。これ、曲はもちろん、むつかしいことをぜんぜん言っていないから感心します。

Last Christmas I gave you my heart

But the very next day you gave it away

英語がわかんない年齢の時でも「むつかしい言葉を使っていない」ということがなぜかわかりましたし。ソングライターの人がこういう作品を作れたら、なんていうか、うれしいだろうな、と思う曲です（当たりまえか）。

килинジの「スウィートソウル」という曲とミュージックビデオがめちゃくちゃいいなと思っていて、今度、本の表紙にその映像の中のカットを使用させていただきました。レコード会社から映像を借りて、ひとコマずつ見て選ぶというようなことをしたわけです。この曲を流す、好きなシチュエーションが人それぞれあると思うのですが、仕事中何百回もりピートし続けたのにまったくあきませんでした。このミュージックビデオは「スウィートソウルep」というCDに収録されているので、見てみたい方はどうぞ。僕自身は映画館で2時間見続けてもいい。

好きな曲って、なんで何度も繰り返し聴けるんですかね。子供のころは、本も、読み終わってまたすぐ頭から読んだりしてましたけど、年齢が上がったらちょっとそういう集中力はなくなってきた。

本の帯は、付けるなら、ほんとはラストクリスマスくらいぱっと分かるのがいい。むつかしいけど。いちどにたくさんのが表示されても、もう僕には理解出来ないんですよ…。